

## 庄内川砂防年表

庄内川流域は、全国でも有数の陶磁器産業地域で、古くから陶磁器生産のための陶土採掘や燃料の薪を得るために山林伐採が盛んに行われてきました。そのため土砂災害が頻発し、江戸時代から「石砂留普請」と呼ばれる治山・治水工事が行われていました。

大正6年から、愛知県と岐阜県で費用分担し庄内川上流（岐阜県）の砂防工事を実施していましたが、その後も災害が続いたため昭和12年に直轄砂防として事業が開始されています。

昭和12年5月	内務省名古屋土木出張所土岐川砂防工場が設置され、妻木川、笠原川の直轄工事に着手。（中津川砂防工場同時開設）同年6月、笠原川赤坂第1砂防堰堤着工。同年7月、妻木川鳥屋砂防堰堤着工。	昭和54年1月	宮川流路工着工。
昭和14年10月	市之倉川の直轄工事に着手。（昭和10年代に72施設完成）	昭和54年4月	豪雨による地すべり被害。土岐市駄知町有古地内で地すべり発生。被害面積5.15ha、被害戸数12戸。
昭和16年4月	庄内川（土岐川）の本川筋である残流域の直轄工事に着手。	昭和55年12月 1月	馬沢流路工着工。 須後川流路工着工。
昭和17年1月	脇之島第1砂防堰堤着工。	昭和57年12月	寺下第4砂防堰堤着工。
昭和24年9月	豪雨による被害。土岐川各支川で洪水。多治見市で全半壊13戸、床上・床下浸水397戸等の被害。	昭和58年9月	台風10号による豪雨被害。多治見市で床上・床下浸水73戸、土岐市で床上・床下浸水102戸、岐阜県下で死者・行方不明者5名。
昭和25年4月	肥田川の直轄工事に着手。同年4月、宮ヶ洞第1砂防堰堤着工。	昭和58年9月 12月	富士下第3砂防堰堤着工。 浦山第4砂防堰堤着工。
昭和26年4月	生田川の直轄工事に着手。同年5月、生田川第1砂防堰堤着工。	昭和62年12月	長総第1砂防堰堤着工。
昭和27年4月	大原川の直轄工事に着手。（昭和20年代に61施設完成）同年4月、団子第1砂防堰堤着工。同年8月、日本初の等高線壕工法による山腹工実施。（団子山）	昭和63年12月	洞山第1砂防堰堤着工。
昭和32年4月	高田川の直轄工事に着手。（昭和30年代に49施設完成）同年4月、裏山第1砂防堰堤着工。砂防工事の直営から一部請負へ転換。	平成元年9月	豪雨による被害。多治見市で床上浸水14戸、床下浸水19戸、土岐市で全壊家屋1戸、半壊家屋4戸、床上浸水252戸、床下浸水207戸の被害。土岐市駄知町で西山の崩壊により死者1名。
昭和32年8月	多治見・瀬戸を中心とした豪雨による被害。多治見市で5,000戸、土岐市内で4,000戸を超える家屋が浸水被害。	平成3年8月	笠原川床固工群着工。
昭和35年8月	台風による被害。多治見市生田町で土砂崩れにより、死者1名。	平成8年2月	雲五川床固工群着工。
昭和37年5月	豪雨による地すべり被害。土岐市下石町山神地内で地すべり発生。被害面積40ha、被害戸数20戸。	平成11年3月	深山第1砂防堰堤着工。
昭和42年7月	豪雨による被害。多治見市で倒壊家屋2戸、国道19号が冠水、国道248号でかけ崩れ（市之倉地内）が発生。	平成11年6月	豪雨による被害。多治見市で土砂崩れ2箇所、笠原川歩行者専用橋に被害。土岐市で、床上浸水27戸、床下浸水61戸、土砂崩れの他、水道橋をはじめ2橋に被害。
昭和43年7月	脇之島流路工着工。	平成11年8月	市之倉おりべ（中峰谷第1）砂防堰堤着工。
昭和44年7月	豪雨による地すべり被害。土岐市土岐津町井戸洞地内で地すべり発生。被害面積7ha、被害戸数20戸。	平成12年9月	豪雨による被害。多治見市で床上・床下浸水124戸。県道15号で土砂崩れ発生。土岐市で床上・床下浸水5戸の被害。
昭和47年7月	梅雨前線による豪雨被害。肥田川、小里川上流で大洪水。土岐川沿川各所にも被害。負傷者4名。床上・床下浸水1093戸。	平成14年9月	生田遊砂工着工。
昭和48年11月	市之倉川流路工着工。	平成17年4月	土岐川流域グリーンベルト整備事業登録。
昭和50年7月	梅雨前線による豪雨被害。多治見市・土岐市で、死者1名。負傷者5名。家屋倒壊12戸。	平成18年10月	浦山第2砂防堰堤を登録有形文化財に登録。
昭和50年12月	狭間流路工着工。	平成23年9月	台風15号による豪雨被害。多治見市・土岐市で床上浸水228戸、床下浸水195戸、死者2名、行方不明者1名。
		平成24年7月 9月	大沢川災害関連工事着工。 源新川砂防堰堤着工。
		平成26年5月	下阿庄砂防堰堤着工。
		平成27年9月	鍛冶ヶ入川第5砂防堰堤着工。